目次

2026年度入学生用 情報学部コンピュータ科学科

◆大学で学ぶ

学部での学びについて ……p.2
学科での学びについて ……p.7
卒業論文に関する評価の基準 ……p.8
進級・卒業条件表（学則別表第5） ……p.9
カリキュラム全体像 ……p.10
カリキュラム表（学則別表第1） ……p.11

◆教職・学芸員課程、資格

教員免許状取得に必要な教職のための科目（学則別表第3） ……p.13
学芸員の資格取得に関する科目（学則別表第4） ……p.14
免許 資格 https://www.kogakuin.ac.jp/career/license/index.html

◆事務手続・履修要綱

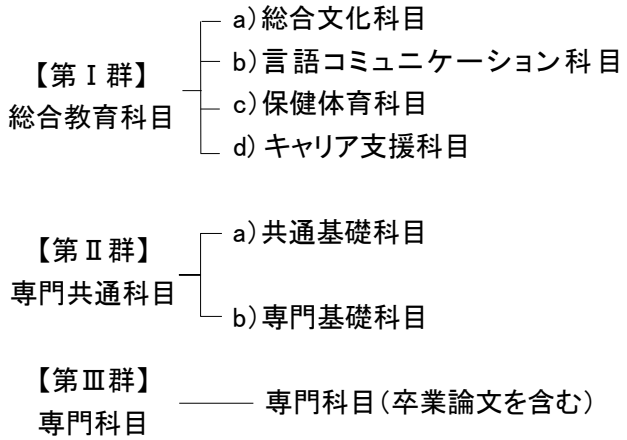
学生生活事務取扱 ……p.15
単位と教育課程 ……p.20
履修登録 ……p.23
授業 ……p.24
試験 ……p.27
成績評価 GPA ……p.29
進級卒業ステップ ……p.31

◆規程等

学則 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/compliance_rules.html
諸規程 https://www.kogakuin.ac.jp/student/syllabus_binran/regulations.html
教育研究上の目的 https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/index.html

2026年度入学生用
情報学部
School of Informatics

◆教育課程◆



この分類は進級・卒業条件の単位数チェックのために必要ですが，単年の最低条件をクリアしても次の学年，卒業に至る単位数には到達困難です。学部・学科で示す“履修ガイド”に従い，各学年で履修習得すべき科目表に従って，履修してください。

情報学部で何を学ぶか

情報学部は，高度情報社会に必要とされる，幅広い能力を持った人材を育成するために生まれた学部です。多様な情報であふれかえる現代社会の中で安全，快適に社会生活を送るには，情報コミュニケーション技術（ＩＣＴ）が不可欠であり，あらゆる分野，場面で情報学とその関連分野が重要となっています。しかしながら，情報社会を支える技術者が不足しているのも事実です。このような社会の状況に対して，情報学部では実際の問題解決を通して学ぶ授業形態（ＰＢＬ）や実験，演習などを積極的に取り入れた授業を行います。

情報通信工学科では，生活の利便性向上に寄与し地球規模での環境に優しい情報通信社会を実現するために，通信工学をベースとしたネットワーク技術，情報伝送に係わる情報メディア技術，省エネルギーと使い勝手に優れたスマートデバイス技術について，その動作原理から応用システムまで幅広く学修します。

コンピュータ科学科では，便利で安心安全な高度情報社会を実現するために，日々進化を続けるコンピュータシステムを使いこなすための，ソフトウェア開発，情報セキュリティ，コンピュータ応用の基盤技術を学修します。

情報デザイン学科では，人や産業・社会基盤に関わる様々な情報分野において，新しい付加価値を創造し，社会が求める「人に優しい情報技術」を提供できるように，人間情報，知識情報，コンテンツ設計分野に関わる技術を学修します。

情報科学科（旧 システム数理学科）では，実社会における課題を汎用的かつ創造的に解決する能力を修得することを目的に，必要なデータ科学（統計学，人工知能等），情報インフラ（データベース，Web プログラミング等），経営情報（企業システム，経済学等）の各分野における専門知識と活用方法を学修します。

高速に発展する情報通信技術の分野では学部だけの知識で真のプロエンジニアや開発技術者として活躍することは困難です。学部卒業後は，ぜひ大学院へ進学し研究や幅広い学修を通じて知識と実践力を身に着けることを推奨します。大学院修了後は，情報ネットワークの構築，情報処理システムの構築，大規模ソフトウェアの設計，セキュリティ，デジタルコンテンツの制作，データサイエンス，マネジメント，AIエンジニアリング等あらゆる分野での活躍が期待されています。

◆情報学部　各学科共通◆

【第Ⅰ群】
総合教育科目
- a）総合文化科目
- b）言語コミュニケーション科目
- c）保健体育科目
- d）キャリア支援科目

【第Ⅱ群】
専門共通科目　a）共通基礎科目

この分類は進級・卒業条件の単位数チェックのために必要ですが，単年の最低条件をクリアしても次の学年，卒業に至る単位数には到達困難です。学部・学科で示す“履修ガイド”に従い，各学年で履修習得すべき科目表に従って，履修してください。

■情報学部の教育課程の概要

情報学部では、1年次と2年次前期を共通履修期としており、各学科及び情報学部総合に入学した全学生が、同一のカリキュラムの下で学修する。共通履修期では、情報学のベースとなる基礎的な科目の重点的な学修のため、1年を4期に分けるクォーター制を採用している。

2年次後期～4年次には、学生は、それぞれのカリキュラムポリシーに対応した学科別カリキュラムの下で学修するとともに、研究室単位での「卒業論文（PBL）」（4年次）を履修する。各学科のカリキュラムの詳細はそれぞれの学科のページに記載されている。

■情報学部教育課程の科目群

情報学部の教育課程は次の3本の柱で編成されている。

1）第Ⅰ群「総合教育科目」
2）第Ⅱ群「専門共通科目」
3）第Ⅲ群「専門科目」

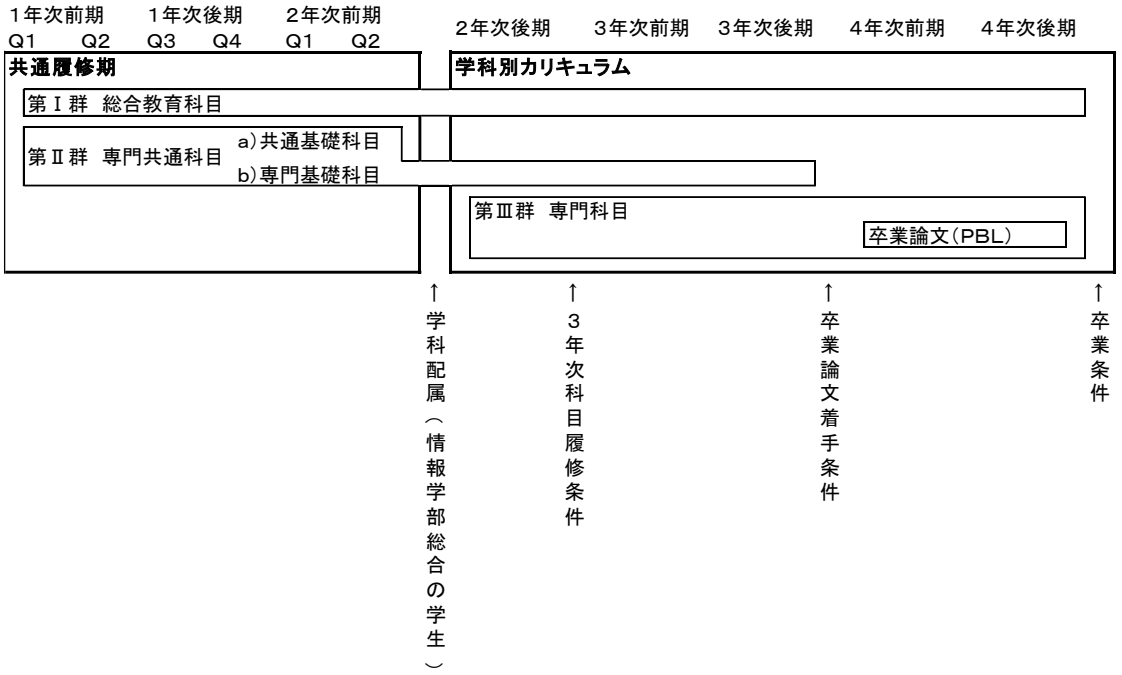
第Ⅰ群「総合教育科目」は、社会人として、技術者として、研究者として、豊かな可能性と創造性を持った人間の形成に役立つことを目指して設置されており、人文科学分野、社会科学分野、コミュニケーション分野、保健体育分野を中心に、幅広い科目が開設されている（より詳しくは後述する）。なお、これらの分野の科目は、従来、一般教養科目と呼ばれ、1、2年次に集中して学ばれることが多かったが、本学ではこれらを「総合教育科目」として1年次～4年次に分散開設し、一般教養教育と専門教育を有機的に結びつけて、専門だけに偏らない、全人格的な情報のプロフェッショナル育成という目標を達成できる教育プログラムを構築している。

第Ⅱ群「専門共通科目」は、情報学を学ぶ者が、将来どのような方向に進むかにかかわらず必要とする基礎的な素養を身につけるために設置されている。「専門共通科目」は、a)「共通基礎科目」とb)「専門基礎科目」に分かれている。「共通基礎科目」は、情報分野に限らず広く科学技術を学ぶ者が必要とする、数学、物理学、化学、生物学、情報処理等の分野の科目によって構成さ

れ（より詳しくは後述する）、全科目が共通履修期に開設されている。「専門基礎科目」は、情報分野により照準を絞った、情報学概論、情報数学、プログラミング、論理回路、電気回路等の分野の科目によって構成され、共通履修期と学科別カリキュラム（ただし3年次まで）の双方に渡って開設されている。

第Ⅲ群「専門科目」は、学生が、情報学各分野の専門的な知識を身につけるとともに、それを用いてさまざまな具体的な課題を解決する力を養成するために設置されている。専門科目は学科別カリキュラムの下に開設されている。

学年進行と科目群の関係は次の図のようにまとめられる。なお、3年次科目履修条件、卒業論文着手条件、卒業条件については、各学科の履修規定を参照すること。



■情報学部総合の学生の学科配属

情報学部総合に入学した学生は、2年次後期より、情報通信工学科、コンピュータ科学科、情報デザイン学科、情報科学科（旧 システム数理学科）のいずれかに配属される。配属の方法については、学園ポータル（キューポート）、掲示等で周知する。

【第Ⅰ群】総 合 教 育 科 目

a）総合文化科目

本学は工科系大学であるが，すべての学問と同じく，工学もそれだけで独立したものではなく，他のさまざまな学問や，歴史や社会との複雑な関連の中ではじめて成り立っている。とりわけ今日では，科学技術や産業のあり方について，さまざまな角度からの再検討，再評価がおこなわれ，全人類的な視野に立った新しい展望の開拓が期待されている。したがって大学に学ぶ者は，狭い意味での専門分野だけではなく，できるだけ多くの学問分野に触れることが望まれる。幅広い知識，多様な関心，柔軟な感性こそが，専門領域での真に創造的な仕事や，現実社会での的確な判断力，責任ある態度を生み出すのである。

総合文化科目は，このような意味で専門教育を根底から支え，研究者として，技術者として，社会人として，豊かな可能性と創造性をもった人間の形成に役立つことを目指して開設される。まず 1年次1Qの「工学院大スタディーズ」では，大学生としての主体的な学びを実践するために必要不可欠な力を身につけ，将来を見据えつつ自らのアイデンティティの確立を図る。さらに1年次後期以降，

いわゆる人文科学，社会科学を中心として，広大な「知」の世界への入口となるよう集められた科目群の中から，自らの意志で科目を選択し，学びを深めてゆくことになる。

b）言語コミュニケーション科目

言語コミュニケーション科目は本学のディプロマポリシー（学位授与の方針）のうち、「03. 汎用的問題解決力の修得」の「日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる／英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる」学生を育成することを主な目的として設置されており、主管するのは教員推進機構の国際キャリア科である 。グローバル化と科学技術が著しく進展する現代において、社会の問題や課題に迅速かつ他者への共感力を持って取り組む力が必要とされている。その力の基礎は、物事を論理的・批判的に考え、適切に言語化し、的確にやり取りする力（つまりコミュニケーション能力）を養う中で培われると考えられ、この能力を養うことが言語コミュニケーション科目の目標である。

必修科目である「Basic English I/II」「Basic Communication Ⅰ/Ⅱ」（１年次）、「Basic Academic English I/II」（２年次）では、グローバルエンジニアとして必須となる論理力および思考力そして英語での表現力を身に付ける。また、選択必修科目においては、「ロジカル・ライティングI/II」で日本語での表現活動を行いながら批判的思考の型を学ぶ。また、「ことばの科学A/B」「Introduction to English for Global Communication A/B 」「English for Global Communication A/B」では、英語に加え、コミュニケーション手段としての言語とその基盤となる文化の違いを含めた横断的な言語コミュニケーションを学ぶことが目指される。さらに、「Exploration into Cultural Diversity A/B」 や「Intensive English Course」を履修し海外での生活を経験することを通して、多様な文化や価値観を理解し寛容な感性を育むことが目指され、これらの科目を主体的に履修し学修することで、グローバル社会で活躍するためのコミュニケーション能力が育成されることが期待されている。

c)保健体育科目

十分な身体活動は、健全な発育発達や心身の健康保持・増進に必要不可欠である。また身体活動の実施によって、生活習慣病が予防され、うつや不安の症状が軽減されるとともに、思考力、学習力、総合的な幸福感を高められるとされている。

1年次は「身体・運動科学演習Ⅰ」「身体・運動科学演習Ⅱ」を履修する（共に1単位・必修科目）。これらの科目を通じて、楽しく安全にスポーツを行う基本的知識（ウォームアップ、クールダウン、水分補給等）や健康管理（飲酒、喫煙等）について理解し、さらに身体運動文化としてスポーツや武道を学ぶ。

運動やスポーツの実施により、体力が向上し、筋肉、骨、関節といった運動器の障害を予防することができる。

さらに、自己の内面を観察し、心身のバランスを整える能力を高めることにもつながり、忍耐力や、あきらめない心を養うことができる。対人的には、チームにおける協調性や、他者への礼節や思いやりを学ぶことにより、コミュニケーション能力を高め、活力あふれる社会人になることが期待できる。

2年次以降は「生涯スポーツ1」「生涯スポーツ2」「生涯スポーツ3」を履修することができる（それぞれ1単位・選択科目）。

以上の科目を通して、自らの生活において主体的に運動・スポーツ習慣を確立していくための能力を身に付けていただきたい。

d)キャリア支援科目

キャリア支援科目は本学のディプロマポリシー（学位授与の方針）のうち、「03. 汎用的問題解決力の修得」を中心に社会人として活躍できる学生を育成することを目的として設置されており、主管するのは主に教員推進機構の国際キャリア科である。

１、２年生から企業等の仕事を実体験できる「インターンシップA」「インターンシップB」や、2 年生後期に受講できる「キャリアデザイン」、3年次開講科目である「学外研修」（インターンシップ）等、自身の将来について主体的に考えていけるようになることが期待されている。

【第Ⅱ群】専 門 共 通 科 目

a)共通基礎科目

現代の科学技術は自然科学の大きな体系の上に成立しており、科学技術の深い内容を理解するためには、自然科学との関係を十分に知ることが重要である。共通基礎科目は本学のディプロマポリシー（学位授与の方針）のうち、「01.基礎知識の修得」の「自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている」学生を育成することを主な目的として設置されており、主管するのは教育推進機構の基礎・教養科である。具体的な科目は各学科のカリキュラムの先頭に記載してある。

微分積分、線形代数、物理学はどのような分野に進む人にとっても不可欠な基礎知識である。これらについて広い視野を持つことは、各人が独自の道を切り開く上で大きな力になる。単に道具として理解するのではなく、自然現象をどのように捉え、表現しようとしているのか、また結果としてどんな描像を得ているかを理解してもらいたいと考えている。ものごとを理解するには、自ら手を動かし、試してみることが肝要である。そのために講義に合わせて演習も用意されている。さらに、化学・生物学の最近の発展は著しく、情報分野においても分子素子やバイオコンピュータなど化学・生物学の基盤なくしては構築できないものがある。「化学及び演習」と「生物学基礎論」で、それらの基礎を意欲的に勉強してもらいたい。

また、現代を生きていく上で不可欠となったコンピュータの基礎について学ぶ情報処理関係科目も用意してある。これをマスターしてのち、情報学部生にふさわしい専門的知識をさらに身につけて欲しい。

2026年度入学生用
コンピュータ科学科
Department of Computer Science

【第Ⅱ群】
専門共通科目 ┬ ａ）共通基礎科目
　　　　　　 └ ｂ）専門基礎科目

【第Ⅲ群】
専門科目 ―― 専門科目

☞ディプロマ・ポリシー

☞カリキュラム・ポリシー

☞教育プログラム

コンピュータ科学科は、ソフトウェア基礎に重点を置き、応用プログラミング、情報システムに精通し、情報セキュリティ技術を理解し、ネットワーク時代の情報・知識を的確にかつ安全に操作できるシステムを設計・開発可能な人材を育成する。これらの分野に必要な基礎知識を、情報数学、データ構造とアルゴリズム、プログラミングなどの専門共通科目を通して身につける。さらに、コンピュータ科学科の応用領域を３つに区分した専門科目、およびコンピュータ科学セミナー等を通して、専門知識と応用力を重点的に教育する。

☞基本方針

コンピュータ科学科のキーワードとして、ソフトウェア設計、情報セキュリティ、コンピュータ応用の３つがあげられる。この３つの基盤領域をカバーするために必要な科目として、ソフトウェアプログラミング、ネットワークセキュリティ、知的処理など未来志向の科目を重点的に配置している。これらの科目の修得を通して、安全な情報社会を担う人材を育成する。また、コンピュータ科学教育を実りあるものとするカリキュラムのひとつとして、PBL(Project Based Learning)を積極的に活用し、基礎力、創造力、問題解決能力を効果的に育成する。

卒業論文(PBL)に関する評価の基準

卒業論文の審査体制・方法について

「卒業論文(PBL)」は、学部4年生を対象とした必修科目の1つで、いずれかの研究室に所属して、教員および大学院生の指導のもと、各研究室が推進している研究プロジェクトをこれまでに修得した学問を駆使して遂行するものです。

＜審査方法＞
本科目は大学で学んだ学問の総仕上げに位置づけられ、学生は1年間の卒業研究を通して得られた成果を卒業論文ならびに抄録にまとめるとともに口頭発表会を行うことを前提とし、それらの内容の審査を受けます。

＜審査体制＞
1年間の卒業研究取り組み状態と、その成果である卒業論文と抄録ならびに口頭発表の内容は指導教員の審査を受け、その結果として「卒業論文(PBL)」の単位が授与されます。

卒業論文の満たすべき基準について

情報学部		・学部の卒業論文の審査では、工学院大学学則の定める修得単位数を満たしていること。 ・所属する学科の研究領域において専門知識・専門技術を身につけ、現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。 ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。 ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。 ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、社会や職業についての知識や技術者として必要な倫理観を備えているかどうかを基に審査する。
情報通信工学科	学士 （工学）	情報通信工学に向けた数学の知識を有し、工学問題に応用することができる。 電子回路および電子デバイスに関する知識を有し、工学問題に応用することができる。 通信ネットワークに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。 デジタルメディアやソフトウェアに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。 情報通信工学に関わる知識を活用し、課題の分析と解決案を実証できる。 電気通信に関わる法規や知的財産についての知識を有している。
コンピュータ科学科	学士 （情報学）	情報社会、情報システムの変化に対応できる計算機の基本概念を身につけている。 情報社会、情報システムに対応できる基礎知識を身につけている。 情報システム、情報機器に対して、プログラミングの知識を応用できる。 情報システムにおけるソフトウェアの企画、設計、運用に対応することができる。 情報システムを用いた種々の応用に取り組むことができる。 情報システムの情報セキュリティ構築の基礎を理解できる。
情報デザイン学科	学士 （情報学）	人と情報社会についての包括的な知識を身につけている。 人間の認知的側面を理解し、未解決の問題を適切に解くことができる。 デジタルコンテンツの情報社会での応用ができる。 社会や個人から得たデータの特性を理解することができる。 社会や個人から得たデータの分析方法を考えることができる。 情報社会の問題解決方法と道すじを論理的に説明できる。
情報科学科	学士 （情報学）	情報システムのアーキテクチャ/方式設計ができる。 情報システムの機能/非機能設計ができる。 数理統計に基づくデータの分析ができる。 実社会の問題を解くためのアルゴリズム設計ができる。 社会や企業の問題に対するICTを活用した解決方法を設計できる。 ビジネスモデルや企業戦略と関連したICTの活用方法を設計できる。

【学則別表第５の11】情報学部コンピュータ科学科　進級・卒業条件表(2026年度入学生用)

下記は進級・卒業のための区分での条件として最低単位数を指すものであり、該当区分の受講可能な科目の有無、科目数を指すものではない。

<table>
<tr><th rowspan="3">群</th><th rowspan="3">科目区分</th><th rowspan="3">科目種類</th><th colspan="3">３年次科目履修
最低条件単位数</th><th colspan="4">卒業論文着手
最低条件単位数</th><th colspan="4">卒業
最低条件単位数</th></tr>
<tr><th rowspan="2">必修</th><th rowspan="2">選択必修</th><th rowspan="2">区分合計
(左記+選択)</th><th rowspan="2">必修</th><th rowspan="2">選択必修</th><th rowspan="2">区分合計
(左記+選択)</th><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">必修</th><th rowspan="2">選択必修</th><th rowspan="2">区分合計
(左記+選択)</th><th rowspan="2"></th></tr>
<tr></tr>
<tr><td rowspan="4">【第Ⅰ群】総合教育科目</td><td colspan="2">a)総合文化科目</td><td></td><td></td><td rowspan="8">65</td><td></td><td>8</td><td>8</td><td rowspan="9">105</td><td></td><td>14</td><td>14</td><td rowspan="9">124</td></tr>
<tr><td colspan="2">b)言語コミュニケーション科目</td><td></td><td></td><td>6</td><td>2</td><td>8</td><td>6</td><td>2</td><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="2">c)保健体育科目</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">d)キャリア支援科目</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">【第Ⅱ群】専門共通科目</td><td colspan="2">a)共通基礎科目</td><td rowspan="5">25</td><td rowspan="5">6</td><td>8</td><td></td><td>12</td><td>8</td><td></td><td>12</td></tr>
<tr><td colspan="2">b)専門基礎科目</td><td rowspan="4">23
(注1)</td><td></td><td rowspan="4">12</td><td rowspan="4">65
(注2)</td><td rowspan="4">25</td><td></td><td rowspan="4">12</td><td rowspan="4">71
(注2)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">【第Ⅲ群】専門科目</td><td>A区分【コンピュータ応用】</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td>B区分【ソフトウエア設計】</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td>C区分【セキュリティ】</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">(セミナー系・学外研修)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">(卒業論文)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>8</td><td></td><td>8</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">他学科科目・単位互換科目</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

〈進級に関わる注意事項〉

(注1)　ただし、情報学実験(２単位)、コンピュータ科学実験(２単位)、コンピュータ科学セミナーⅠ(１単位)、コンピュータ科学セミナーⅡ(１単位)は必ず含めること。

(注2)　本区分には、情報学部他学科設置の第Ⅱ群b)および【第Ⅲ群】の科目を学部枠として最大６単位まで算入できる。
(ただし、下記に定める類似科目については除く)。このとき、他学科における選必種別によらず、すべて選択科目として取り扱われる。
【注２に関わる、学部枠としての算入を認められない類似科目】
応用解析学(情報通信工学科)、応用確率・統計学(情報デザイン学科)、応用確率・統計学演習(情報デザイン学科)、システム構築論(情報科学科)、
多変量解析(情報科学科)、数値計算法(情報通信工学科)、数値計算論(情報デザイン学科)、通信システム基礎(情報通信工学科)、
情報ネットワーク基礎論(情報デザイン学科)、情報ネットワーク概論(情報科学科)、オブジェクト指向設計論(情報デザイン学科)、
オブジェクト指向設計演習(情報デザイン学科)、情報コンテンツと知的財産(情報デザイン学科)、情報と法(情報科学科)、機械学習(情報科学科)

■この表は 、判定時にコンピュータ科学科に所属する全ての学生に適用される。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。
なお年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
３年次科目履修	無
卒業論文着手	無
卒業	有 (学則の定めにより)

2026年度入学生　コンピュータ科学科カリキュラム全体像

※開講期や単位数は次ページのカリキュラム表で確認してください

群	選必種別	1年	2年	3年	4年
【第Ⅰ群】総合教育科目	必修	Basic Communication I Basic Communication II Basic English I Basic English II 身体・運動科学演習Ⅰ 身体・運動科学演習Ⅱ	Basic Academic English I Basic Academic English II		
	選択必修	※総合文化科目（科目名詳細はカリキュラム表を参照） Intensive English Course English for Global Communication A English for Global Communication B Introduction to English for Global Communication A Introduction to English for Global Communication B ことばの科学A Exploration into Cultural Diversity A Exploration into Cultural Diversity B ロジカル・ライティングⅠ ロジカル・ライティングⅡ	美術A ことばの科学B		
	選択	インターンシップA インターンシップB	生涯スポーツ1 生涯スポーツ2 キャリアデザイン	生涯スポーツ3 教育者のための遊びの指導法 医薬工協働（PBL）	
【第Ⅱ群】専門共通科目	必修	微分及び演習 積分及び演習 線形代数学及び演習Ⅰ 線形代数学及び演習Ⅱ 情報処理入門 基礎情報学 応用情報学 情報数学および演習1 情報数学および演習2 プログラミングおよび演習1 プログラミングおよび演習2 プログラミングおよび演習3 プログラミングおよび演習4 論理回路	電気回路理論Ⅰ 電気回路理論演習Ⅰ 確率・統計Ⅰ 情報学実験 コンピュータ科学実験	情報技術者英語	
	選択必修			離散数学 情報理論	
	選択	偏微分及び演習 重積分及び演習 線形代数学及び演習Ⅲ 線形代数学及び演習Ⅳ 物理学及び演習Ⅰ 物理学及び演習Ⅱ 物理学及び演習ⅢC 物理学及び演習ⅢD 物理学実験 化学及び演習Ⅰ 化学及び演習Ⅱ 情報数学および演習3 情報数学および演習4	生物学基礎論 コンピュータアーキテクチャ 情報学特別講義 計算幾何学 統計解析学 データ構造とアルゴリズム及び演習	微分方程式 英語文献講読 情報社会と情報倫理 情報学先端技術	
【第Ⅲ群】専門科目	必修			コンピュータ科学セミナーⅠ(PBL) コンピュータ科学セミナーⅡ(PBL)	卒業論文(PBL)
	選択必修		信号処理概論 音響工学基礎 基本ソフトウェア論 数値計算法概論 オブジェクト指向プログラミング インターフェース論 セキュリティ概論	画像工学基礎 計算数理 機械学習 並列・分散システム ソフトウェア工学Ⅰ 情報ネットワーク論 サイバーセキュリティ1 サイバーセキュリティ2 企業経営と情報セキュリティ	
	選択		信号処理演習 オブジェクト指向プログラミング演習(PBL)	組み込みシステム 組み込みシステム演習(PBL) 応用音響処理 応用画像処理 最適化論 Webシステム演習(PBL) ソフトウェア工学Ⅱ サイバーセキュリティ演習1 サイバーセキュリティ演習2 学外研修	知的財産
その他				情報と職業	

2026年度入学生　コンピュータ科学科カリキュラム表（学則別表第一）

配当学年	選必種別	履修期	群	科目区分	科目種類	科目名	授業形態	単位数	教職	学位授与の方針1	学位授与の方針2	学位授与の方針3	学位授与の方針4	備考
1	必修	前期	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		Basic Communication I	演習	1	教職	30	0	70	0	
						Basic English I	演習	1	教職	40	0	60	0	
				c）保健体育科目		身体・運動科学演習 I	演習	1	教職	20	0	10	70	
			【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		情報処理入門	講義	2	教職	100	0	0	0	
				b）専門基礎科目		基礎情報学	演習	1		80	20	0	0	
		1Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		線形代数学及び演習 I	講義・演習	1.5	教職	100	0	0	0	
						微分及び演習	講義・演習	1.5	教職	100	0	0	0	
				b）専門基礎科目		プログラミングおよび演習1	講義・演習	1.5	教職	80	20	0	0	
						情報数学および演習1	講義・演習	1.5		80	20	0	0	
		2Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		積分及び演習	講義・演習	1.5	教職	100	0	0	0	
						線形代数学及び演習 II	講義・演習	1.5	教職	100	0	0	0	
				b）専門基礎科目		プログラミングおよび演習2	講義・演習	1.5	教職	80	20	0	0	
						情報数学および演習2	講義・演習	1.5		80	20	0	0	
		後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		Basic Communication II	演習	1	教職	30	0	70	0	
						Basic English II	演習	1	教職	40	0	60	0	
				c）保健体育科目		身体・運動科学演習 II	演習	1	教職	20	0	10	70	
			【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		論理回路	講義	2		20	60	20	0	
						応用情報学	演習	1		80	20	0	0	
		3Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		プログラミングおよび演習3	講義・演習	1.5		80	20	0	0	
		4Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		プログラミングおよび演習4	講義・演習	1.5		80	20	0	0	
	選択必修	前期	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		ロジカル・ライティング I	演習	1		10	0	70	20	
		1Q	【第Ⅰ群】総合教育科目	a）総合文化科目		工学院大スタディーズ	講義	1		10	0	30	60	
		前期または後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		English for Global Communication A	演習	1		20	0	80	0	
						English for Global Communication B	演習	1		20	0	80	0	
						Introduction to English for Global Communication A	演習	1		20	0	80	0	
						Introduction to English for Global Communication B	演習	1		20	0	80	0	
						ことばの科学A	演習	1		20	0	80	0	
						Exploration into Cultural Diversity A	演習	1		40	0	30	30	
						Exploration into Cultural Diversity B	演習	1		40	0	30	30	
		集中	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		Intensive English Course	演習	2		40	0	60	0	
		後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	a）総合文化科目		スポーツ科学	講義	2		50	0	0	50	
						科学論A	講義	2		50	0	0	50	
						科学論B	講義	2		50	0	0	50	
						環境経済学	講義	2		50	0	0	50	
						教育学A	講義	2		50	0	0	50	
						教育学B	講義	2		50	0	0	50	
						経営学A	講義	2		50	0	0	50	
						経営学B	講義	2		50	0	0	50	
						経済学A	講義	2		50	0	0	50	
						経済学B	講義	2		50	0	0	50	
						芸術学A	講義	2		50	0	0	50	
						芸術学B	講義	2		50	0	0	50	
						現代文化論A	講義	2		50	0	0	50	
						現代文化論B	講義	2		50	0	0	50	
						国際関係論A	講義	2		50	0	0	50	
						国際関係論B	講義	2		50	0	0	50	
						社会学A	講義	2		50	0	0	50	
						社会学B	講義	2		50	0	0	50	
						社会思想A	講義	2		50	0	0	50	
						社会思想B	講義	2		50	0	0	50	
						宗教学A	講義	2		50	0	0	50	
						宗教学B	講義	2		50	0	0	50	
						心理学A	講義	2		50	0	0	50	
						心理学B	講義	2		50	0	0	50	
						身体健康学	講義	2		50	0	0	50	
						政治学A	講義	2		50	0	0	50	
						政治学B	講義	2		50	0	0	50	
						哲学A	講義	2		50	0	0	50	
						哲学B	講義	2		50	0	0	50	
						日本国憲法	講義	2	教職	40	0	0	60	
						美術B	講義	2		50	0	0	50	
						文学A	講義	2		50	0	0	50	
						文学B	講義	2		50	0	0	50	
						法学A(日本国憲法1単位を含む)	講義	2	教職	50	0	0	50	
						法学B(日本国憲法1単位を含む)	講義	2	教職	50	0	0	50	
						倫理学A	講義	2		50	0	0	50	
						倫理学B	講義	2		50	0	0	50	
						歴史学A	講義	2		50	0	0	50	
						歴史学B	講義	2		50	0	0	50	
						論理学A	講義	2		50	0	0	50	
						論理学B	講義	2		50	0	0	50	
						スポーツ・身体文化論	講義	2		50	0	0	50	
						技術者を志す私たちの総合文化プロジェクト	講義	2		30	0	40	30	
						中国の言語と文化	講義	2		50	0	0	50	
						ドイツの言語と文化	講義	2		50	0	0	50	
						フランスの言語と文化	講義	2		50	0	0	50	
				b）言語コミュニケーション科目		ロジカル・ライティング II	演習	1		10	0	60	30	
	選択	1Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		化学及び演習 I	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
						物理学及び演習 I	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
		2Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		化学及び演習 II	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
						物理学及び演習 II	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
		集中	【第Ⅰ群】総合教育科目	d）キャリア支援科目		インターンシップA	実習	1		0	0	20	80	
						インターンシップB	実習	2		0	0	20	80	
		3Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		線形代数学及び演習III	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
						物理学実験	実習	1		80	0	20	0	
						偏微分及び演習	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
				b）専門基礎科目		情報数学および演習3	講義・演習	1.5		80	20	0	0	
		4Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		重積分及び演習	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
						線形代数学及び演習IV	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
				b）専門基礎科目		情報数学および演習4	講義・演習	1.5		80	20	0	0	
		3Qまたは4Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		物理学及び演習IIIC	講義・演習	1.5		100	0	0	0	
						物理学及び演習IIID	講義・演習	1.5		100	0	0	0	

2026年度入学生　コンピュータ科学科カリキュラム表（学則別表第一）

配当学年	選必種別	履修期	群	科目区分	科目種類	科目名	授業形態	単位数	教職	学位授与の方針1	学位授与の方針2	学位授与の方針3	学位授与の方針4	備考
2	必修	前期	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		Basic Academic English I	演習	1	教職	30	0	70	0	
			【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		確率・統計Ⅰ	講義	2		80	20	0	0	
						情報学実験	実習	2		70	10	10	10	
						電気回路理論Ⅰ	講義	2		85	15	0	0	
						電気回路理論演習Ⅰ	演習	1		85	15	0	0	
		後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		Basic Academic English II	演習	1	教職	30	0	70	0	
			【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		コンピュータ科学実験	実習	2	教職	5	90	5	0	
	選択必修	前期	【第Ⅰ群】総合教育科目	a）総合文化科目		美術A	講義	2		50	0	0	50	
		前期または後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	b）言語コミュニケーション科目		ことばの科学B	演習	1		20	0	80	0	
		後期	【第Ⅲ群】専門科目	A区分【コンピュータ応用】		音響工学基礎	講義	2	教職	100	0	0	0	
						信号処理概論	講義	2	教職	0	60	40	0	
				B区分【ソフトウエア設計】		インターフェース論	講義	2	教職	10	70	10	10	
						オブジェクト指向プログラミング	講義	2	教職	100	0	0	0	
						基本ソフトウェア論	講義	2	教職	0	100	0	0	
						数値計算法概論	講義	2	教職	80	20	0	0	
				C区分【セキュリティ】		セキュリティ概論	講義	2	教職	10	70	10	10	
	選択	前期	【第Ⅱ群】専門共通科目	a）共通基礎科目		生物学基礎論	講義	2		100	0	0	0	
				b）専門基礎科目		コンピュータアーキテクチャ	講義	2	教職	100	0	0	0	
						データ構造とアルゴリズム及び演習	講義・演習	3		10	60	30	0	
		2Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		情報学特別講義	講義	1		20	0	80	0	
		前期または後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	c）保健体育科目		生涯スポーツ1	演習	1		10	0	10	80	
						生涯スポーツ2	演習	1		10	0	10	80	
		後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	d）キャリア支援科目		キャリアデザイン	講義	2		10	0	50	40	
			【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		計算幾何学	講義	2	教職	80	0	20	0	
						統計解析学	講義	2	教職	10	80	10	0	
			【第Ⅲ群】専門科目	A区分【コンピュータ応用】		信号処理演習	演習	1	教職	0	100	0	0	
				B区分【ソフトウエア設計】		オブジェクト指向プログラミング演習(PBL)	演習	1	教職	100	0	0	0	
3	必修	前期	【第Ⅲ群】専門科目			コンピュータ科学セミナーⅠ(PBL)	演習	1		5	90	5	0	
		2Q	【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		情報技術者英語	講義	1		10	10	70	10	
		後期	【第Ⅲ群】専門科目			コンピュータ科学セミナーⅡ(PBL)	演習	1		5	90	5	0	
	選択必修	前期	【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		情報理論	講義	2	教職	100	0	0	0	
						離散数学	講義	2	教職	80	10	10	0	
			【第Ⅲ群】専門科目	A区分【コンピュータ応用】		画像工学基礎	講義	2	教職	100	0	0	0	
						計算数理	講義	2	教職	10	70	10	10	
				B区分【ソフトウエア設計】		ソフトウェア工学Ⅰ	講義	2	教職	0	100	0	0	
						並列・分散システム	講義	2		10	90	0	0	
				C区分【セキュリティ】		情報ネットワーク論	講義	2	教職	10	55	20	15	
						サイバーセキュリティ1	講義	2		0	100	0	0	
		後期	【第Ⅲ群】専門科目	A区分【コンピュータ応用】		機械学習	講義	2	教職	20	80	0	0	
				C区分【セキュリティ】		企業経営と情報セキュリティ	講義	2		0	80	10	10	
						サイバーセキュリティ2	講義	2		0	100	0	0	
	選択	前期	【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		情報学先端技術	講義	2		0	80	10	10	
						情報社会と情報倫理	講義	2	教職	10	10	10	70	
						微分方程式	講義	2	教職	80	0	20	0	
			【第Ⅲ群】専門科目	C区分【セキュリティ】		サイバーセキュリティ演習1	演習	1	教職	0	100	0	0	
		前期または後期	【第Ⅰ群】総合教育科目	c）保健体育科目		生涯スポーツ3	演習	1		10	0	10	80	
				d）キャリア支援科目		教育者のための遊びの指導法	講義	2		40	0	60	0	
		集中	【第Ⅰ群】総合教育科目	d）キャリア支援科目		医薬工協働（PBL）	講義	2		0	50	50	0	
			【第Ⅲ群】専門科目			学外研修	実習	2		0	0	30	70	
		後期	【第Ⅱ群】専門共通科目	b）専門基礎科目		英語文献講読	講義	2		10	10	70	10	
			【第Ⅲ群】専門科目	A区分【コンピュータ応用】		応用音響処理	講義	2		0	100	0	0	
						応用画像処理	講義	2		0	100	0	0	
						最適化論	講義	2	教職	0	80	20	0	
						組み込みシステム	講義	2		0	80	20	0	
						組み込みシステム演習(PBL)	演習	1		0	80	20	0	
				B区分【ソフトウエア設計】		Webシステム演習(PBL)	演習	1		80	20	0	0	
						ソフトウェア工学Ⅱ	講義	2	教職	0	100	0	0	
				C区分【セキュリティ】		サイバーセキュリティ演習2	演習	1		0	100	0	0	
		前期または後期	その他			情報と職業	講義	2	教職	10	60	10	20	左記の科目は教員免許状取得に必要な科目であって，「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
4	必修	通年	【第Ⅲ群】専門科目			卒業論文(PBL)	卒論	8		10	45	30	15	
	選択	前期	【第Ⅲ群】専門科目	C区分【セキュリティ】		知的財産	講義	2	教職	10	80	0	10	

別表第３　教員免許状取得に必要な教職のための科目

・「科目区分」欄についての詳細は、教職課程の手引きを参照すること。
・各教科の指導法に関する科目（「○○教育の理論と方法A、B」）については、取得しようとする免許教科ごとに中学校一種の場合は8単位（A・B両方）、
高等学校一種の場合は4単位（A・Bいずれか）以上修得しなければならない。

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	授業科目名	選必種別	授業形態	学年	履修期	単位数	備考
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	別表第１を参照のこと					計20	
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	数学教育の理論と方法Ａ	必修	講義	3年	通年/集中	4単位	高１種免はいずれか１科目必修
			数学教育の理論と方法Ｂ	必修	講義	3年	通年/集中	4単位	
			理科教育の理論と方法Ａ	必修	講義	3年	通年/集中	4単位	高１種免はいずれか１科目必修
			理科教育の理論と方法Ｂ	必修	講義	3年	通年/集中	4単位	
			技術教育の理論と方法Ａ	必修	講義	3年	通年/集中	4単位	
			技術教育の理論と方法Ｂ	必修	講義	3年	通年/集中	4単位	
			情報教育の理論と方法Ａ	選択必修	講義	3年	通年/集中	4単位	いずれか１科目選択必修
			情報教育の理論と方法Ｂ		講義	3年	通年/集中	4単位	
			工業教育の理論と方法Ａ	選択必修	講義	3年	通年/集中	4単位	いずれか１科目選択必修
			工業教育の理論と方法Ｂ		講義	3年	通年/集中	4単位	
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育原論	必修	講義	1年	通年	4単位	
			教育史	選択	講義	3年	通年	4単位	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	現代教職論	必修	講義	1年	前期	2単位	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	学校経営論	選択	講義	3年	前期または後期	2単位	
			教育法規	選択	講義	3年	前期または後期	2単位	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	必修	講義	1年	後期	2単位	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別なニーズ教育入門	必修	講義	1年	集中	1単位	
		教育課程の意義及び編成の方法（ｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄを含む。）	教育課程論	必修	講義	1年	集中	1単位	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法	必修	講義	1年	前期または後期	2単位	中1種免のみ必修 高1種免は「第六欄」選択科目
		総合的な学習の時間の指導法[*1] 総合的な探究の時間の指導法[*2]	総合的な学習の時間の理論と方法	必修	講義	1年	1Qまたは2Qまたは3Qまたは4Q	1単位	[*1] 中1種免 [*2] 高1種免
		特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	必修	講義	3年	前期	2単位	
		教育の方法及び技術	教育工学	選択	講義	3年	前期	2単位	
		・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	必修	講義	3年	前期または後期	2単位	
		・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導及びｷｬﾘｱ教育の理論及び方法	生徒指導論 (教育相談及び進路指導を含む)	必修	講義	3年	通年	4単位	
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導	必修	演習	3年	後期	1単位	
			教育実習Ａ	必修	実習	4年	通年	2単位	
			教育実習Ｂ	必修	実習	4年	通年	2単位	中1種免のみ必修
		教職実践演習	教職実践演習(中学校高等学校)	必修	演習	4年	後期	2単位	
第六欄	大学が独自に設定する科目		社会教育	選択	講義	1年	前期または集中	2単位	
			道徳教育の理論と方法	選択	講義	1年	前期または後期	2単位	高１種免のみ「第六欄」に分類

別表第４　学芸員の資格取得に関する科目

授業科目			授業形態	学年	履修期	単位数	備考
必修科目		社会教育	講義	1年	前期または集中	２単位	注1）
		博物館概論	講義	1年	集中	２単位	
		博物館経営論	講義	2年	集中	２単位	
		博物館資料論	講義	2年	集中	２単位	
		博物館資料保存論	講義	2年	集中	２単位	
		博物館展示論	講義	1年	集中	２単位	
		博物館教育論	講義	1年	集中	２単位	
		博物館情報・メディア論	講義	1年	集中	２単位	
		博物館実習	講義・実習	３・4年	集中	３単位	３、４年次共に必履修
選択科目（領域）	文化史	日本建築史	講義	2年	後期	２単位	注2）建築学部
		西洋建築史	講義	1年	後期	２単位	注2）建築学部
		近代建築史	講義	3年	前期	２単位	注2）建築学部
	自然科学史	科学論A	講義	2年	前期または後期	２単位	全学部
		科学論B	講義	2年	前期または後期	２単位	全学部
	物理	物理学及び演習Ⅰ	講義・演習	1年	1Q	1.5単位	先進工学部・工学部・情報学部
		物理学及び演習Ⅱ	講義・演習	1年	2Q	1.5単位	先進工学部・工学部・情報学部
		物理学及び演習ⅢA	講義・演習	1年	3Qまたは4Q	1.5単位	工学部
		物理学及び演習ⅢB	講義・演習	1年	3Qまたは4Q	1.5単位	工学部(電気電子工学科)
		物理学及び演習ⅢC	講義・演習	1年	3Qまたは4Q	1.5単位	工学部(機械工学科・機械ｼｽﾃﾑ工学科) 情報学部
		物理学及び演習ⅢD	講義・演習	1年	3Qまたは4Q	1.5単位	情報学部
		物理学概論Ⅰ	講義	1年	後期	２単位	建築学部
		物理学概論Ⅱ	講義	2年	前期または後期	２単位	建築学部
	化学	化学及び演習Ⅰ	講義・演習	1年または２年	1Q	1.5単位	先進工学部・工学部(機械工学科・機械ｼｽﾃﾑ工学科の25年度以前の入学生、電気電子工学科）・情報学部
		基礎化学Ⅰ	講義	２年	1Q	１単位	工学部（機械工学科・機械ｼｽﾃﾑ工学科の26年度以降の入学生）
		化学及び演習Ⅱ	講義・演習	1年または２年	2Q	1.5単位	先進工学部・工学部(機械工学科・機械ｼｽﾃﾑ工学科の25年度以前の入学生、電気電子工学科）・情報学部
		基礎化学Ⅱ	講義	２年	2Q	１単位	工学部（機械工学科・機械ｼｽﾃﾑ工学科の26年度以降の入学生）
		化学物質論	講義	1年または２年	3Q	１単位	工学部
		化学現象論	講義	1年または２年	4Q	１単位	工学部
		化学概論	講義	1年	後期	２単位	建築学部
	生物学	生物学	講義	1年	1Qまたは2Q	１単位	先進工学部
		生物学概論	講義	1年または２年	前期または後期	２単位	工学部･建築学部
		生物学基礎論	講義	2年	前期	２単位	情報学部
	地学	地学	講義	1年	1Qまたは2Q	１単位	先進工学部

注1）「社会教育」は教職科目と共通開講

注2）建築学部は、文化史全て（「西洋建築史」「近代建築史」「日本建築史」）を必ず修得すること

注3）上記学芸員課程上の必修科目は、卒業単位に算入されない

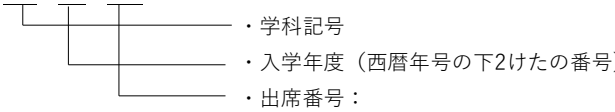
学生生活

1　学籍番号

学籍番号は入学時に学生個人に与えられる番号であり、転籍などによって異動しないかぎりは卒業するまで変わらない。ただし、建築学部については、新3年次に学科記号が変更される（②参照）。なお、学籍番号の決め方は下記の通りである。

①　　下例のように2文字の学科記号と５けたの数字をハイフンで結んで表す。

【例】　A１-YY　001　＜20YY年度入学で機械工学科出席番号１番の学生を表す＞



・学科記号
・入学年度（西暦年号の下2けたの番号）
・出席番号：
入学年度、学科・コースごとに原則として氏名の五十音順による001から始まる一連番号。ただし先進工学部(大学院接続型)は、201から始まる。

②　学科を表す記号は次の通り定める。

【先進工学部】
S1……生命化学科
S2……応用化学科
S3……環境化学科
S4……応用物理学科
S5……機械理工学科
SS……先進工学部大学院接続型（2年次からS1～S5のいずれかの振り分けられるが**学科記号の変更はない**）

【工学部】
A1……機械工学科
A2……機械システム工学科
C4……電気電子工学科

【建築学部】
DX……建築学部総合（**新3年次に学科記号がDXからDA、DBまたはDCに変更となる**）
DA……まちづくり学科
DB……建築学科
DC……建築デザイン学科

【情報学部】
JX･……情報学部（2年次後期からJ0～J3のいずれかに振り分けられるが**学科記号の変更はない**）
J0･……情報通信工学科
J1･……コンピュータ科学科
J2･……情報デザイン学科
J3･……情報科学科

③　転籍、編入学の場合は番号を変更し、下3けたの出席番号を、901以降の番号とする。
（ただし、建築学部内2年次終了時の転籍においては、下3桁の番号変更はない。）

2　学生証

学生証は、本学学生であることを証明すると同時に、通学定期券の購入をはじめ、授業出席確認、定期試験時などに必ず使用する。**在学中は常に携帯し、大切に扱うこと。**

≪表面≫

≪裏面≫　学生証裏面シール（年1回、4月更新）

■学生証を提示しなければならない時

①授業出席時（入室時（授業開始前）に必ずカードリーダに
　学生証をかざして出席登録すること）
②定期試験等の時
③教務課窓口で各種証明書の発行を受ける時
④工手の泉（ライブラリサービス）での書籍の貸出時
⑤通学定期券購入時
⑥その他、本学教職員から提示を求められた時

＊裏面シールは、通学定期券の購入時に必要である。
＊当該年度の在籍確認印がないものは使用できない。
＊裏面シールの更新時、住所変更時、通学定期乗車券発行控の余白がなくなった時、通学区間の変更時には教務課に申し出ること。
＊学籍番号、氏名、年齢、現住所、現住所の最寄り駅を記入する。なお、故意に不正の記入があった時は厳重に処罰される。

■下記の場合には、速やかに教務課に申し出ること

1．学生証の不具合

①出席確認が取れない時（ICの不具合）
②セキュリティのかかったエリアに入れない時（磁気の不具合）

2．学生証の再発行

学生証を紛失または破損（表面不鮮明、折れ曲がり、傷による磁気読み込み不可等）した時は再発行が必要である。
※再発行の申請に必要なもの
①手数料2,000円
②身分証明書（運転免許証・保険証等）
③印鑑

≪学生証取扱上の注意≫

学生証には、内部に精密な電子部品が内蔵されており、取扱いによっては使用できなくなる場合がある。取扱いには十分注意すること。
①衝撃を加えたり、折り曲げたりしない。
②ズボンの後ろポケットや財布のボタンが当たる場所に入れて持ち歩くことは避け、なるべくカードホルダー（ハードケースタイプ）などに入れて携帯する。
③むやみにカード表面を擦ったりしない。
④磁気（マグネット、携帯電話等）に近づけない。
⑤車の中やストーブの近くなど高温または多湿になる場所に保管しない。

3．学生証の再交付（旧学生証と交換）**※発行手数料は無料**

学部の学生証の有効期限は原則4年間であるが、次の場合には学生証の再交付を受けること。
①氏名を変更した時
②有効期限が切れた時
③学籍異動（転籍、建築学部3年次学科配属）した時

4．学生証の返還

①卒業、退学、除籍された時
②新たな学科配属となった時（新しい学生証と交換）
③学生証の有効期限が切れた時（新しい学生証と交換）
④再発行後に、前の学生証が見つかった時（前の学生証を返還すること。ただし、手数料は返金しない）

3 就学中の諸手続き

次の場合はそれぞれの所定の様式によって、すみやかに願い出又は届け出なければならない。**なお、学籍異動に関しては、なるべく早めに事務取扱窓口で相談のこと。**願（届）用紙は事務取扱窓口にある。

1．学籍異動について

事項		備考	窓口
休学	休学（学則第28条）	病気その他やむを得ない理由で引続き6か月以上出席できない場合に限る。	教務課
	期間	休学期間は、1年を超えないものとする。ただし、特別の事情のある場合には、1年を限度として引続き休学を許可することがある。 通年休学　4月1日～ 翌年3月31日 前期休学　4月1日～　9月30日 後期休学　10月1日～翌年3月31日	
	願い出期日	通年休学　前年度の3月31日まで 前期休学　前年度の3月31日まで 後期休学　9月30日まで	
	提出書類	休学願に理由を記し、保証人連署の上、次の書類を添えて所属学科の面談を経て、学長宛に願い出なければならない。 ①病気の場合は医師の診断書 ②病気以外の場合は、休学理由を証明する必要な証明書等	
	修業年限	休学期間は、在学期間に算入しない。	
	休学在籍料	6ヶ月＝60,000円　/　1年間＝120,000円	
復学	復学 (学則第28条第6項)	休学の理由が消滅したとき。	
	願い出期日	前期から復学　前年度の3月31日まで 後期から復学　9月30日まで	
	提出書類	復学願に理由を記し保証人連署の上、医師の診断書または必要な証明書を添えて、所属学科の面談を経て、学長宛に願い出なければならない。	
退学	退学（学則第29条）	自己都合による退学と懲戒処分による退学（学則第31条）がある。退学は当該期の学費を納入した者が願い出ることができる。 懲戒処分による退学者に対しては、再入学を許可しない。	
	提出書類	自己都合による退学の場合は、退学願に理由を記し、保証人連署の上、学生証を添えて所属学科の面談を経て、学長宛に願い出なければならない。	
	願い出期日	前期中の退学　9月30日まで 後期中の退学　3月31日まで	
転籍	転科（学則第27条）	原則として同一学年（進級学年）に限り許可することがある。(「工学院大学転籍に関する取扱い細則」参照)	
	願い出の時期	前年度の1月21日～1月末日	
	手数料等	出願手数料：500円 転籍料：10,000円 ただし、建築学部内2年次終了時の転籍においては、手数料および転籍料を要しない（「工学院大学転籍に関する取扱い細則」参照）	
再入学	再入学 (学則第29条第2項) (学則第30条第3項)	本学を退学した者（学則第31条の懲戒処分による退学は除く）および学則第30条第1項第1号および第3号により除籍を受けた者(学費を滞納し督促を受けても納入しない者、休学期間満了になっても復学願を提出しない者）が、退学・除籍された年度の翌年度から起算して4年以内に再入学を願い出たときは、出願年次の成績修得状況が退学・除籍前の在籍期間を通算して8年以内に卒業見込みのある場合に限り、学科の面接を受けて再入学を許可されることがある。 （「工学院大学再入学規程」参照）	
	願い出の時期	前年度の2月1日～2月15日	
	再入学金	再入学した年次の入学金の半額	
	学費	再入学した学科、年次に適用される学費を納入しなければならない。	
	手数料等	再入学選考料：　33,000円	

事項	備考	窓口
除籍 （学則第30条）	次の各号の１つに該当する者は、除籍となる。 ①学費を滞納し督促を受けても納入しない者 ②在学年数8年を超えた者 ③休学期間満了になっても復学願を提出しない者 ④入学を許可されたが、在籍する意思のない者	

２．身上の変更に関する届

事項	備考	窓口
改　姓　名	変更届に戸籍抄本を添えて、窓口に届け出ること。	教務課
通称名使用申請書		
本　籍　変　更		
住　所　変　更	学生及び保証人の住所変更は学生ポータルサイト「キューポート」上で学生自身が届け出ること。	
保　証　人　変　更	変更届に誓約書を添えて、窓口に届け出ること。	

３．その他

事項	備考	窓口
休学期間中について	休学期間中、本学での科目の履修および単位修得はできません。 学内施設及び学生ポータルサイト「キューポート」は利用できます。	教務課
欠　席　（　届　）	2週間以上にわたり病気等で欠席するとき。診断書等証明書類の添付を要する。	教務課
施設等使用許可申請書	集会その他で教室または運動場等を使用するとき。 課外活動で物品を借用するとき。	学生支援課

4　証明書等の申請と交付

以下は在学生。卒業生についてはHPの以下URLを参照。

※https://www.kogakuin.ac.jp/student/campuslife/certificate/certificate_issuance.html

種別	手数料（１通につき）	備考
在　学　証　明　書	200円	
成　績　証　明　書	200円	卒業見込者の成績証明書は卒業見込証明書を兼ねる
卒　業　見　込　証　明　書	200円	
教員免許状取得見込証明書	200円	
健　康　診　断　証　明　書	200円	健康診断受診後に発行可能(詳細は「キューポート」にて確認のこと)
通　学　証　明　書	無料	学生証で購入できない路線の場合のみ発行
学生旅客運賃割引証（学割証）	無料	

※証明書コンビニ発行サービスを利用した場合の手数料はHP上に記載する。

※証明書に記載される学年は、進級・卒業条件表に対応する「学年」を記載しています。

■証明書の申込方法

① 在学・成績・卒業見込・健康診断・学割証は証明書自動発行機で発行できる。（英文の各種証明書は窓口申込が必要となる。）

※就職活動に使用する「卒業見込証明書」「卒業見込み付き成績証明書」は卒業論文（研究）および創造工学セミナーⅡ着手条件を充足した学生（4年生）のみが発行対象となる（3年生には発行しない）。

② 窓口で発行する場合は、窓口備付の申込書に必要事項を記入し、手数料分の証紙（券売機で購入）を貼付の上、提出する。

③ 証明書の申請の際には、必ず学生証を提示すること。

■通学定期乗車券の購入について

①交通各社指定窓口で当該年度の裏面シールを貼付した学生証を提示すれば購入できる。

②バス通学や新宿・八王子の両校通学等で通学証明書を必要とする場合は、教務課に申請する。

■学生旅客運賃割引証（学割証）について

① 学割証は学生個人の自由な権利として使用することを前提とされているものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度であり、使用目的は次の各号に限られている。

・休暇、所用による帰省
・実験実習などの正課の教育活動
・学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
・就職又は進学のための受験等
・学校が修学上適当と認めた見学または行事への参加
・傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
・保護者の旅行への随行

② 学割証は片道100kmを超える場合に使用でき、有効期間は発行の日から３カ月であり、１枚で往復乗車券も購入できる。

③ 学割証は本人に限り使用できる。その他学割証裏面に記載された使用上の注意を守り、不正に使用することのないよう十分留意すること。

5 事務取扱案内

事項	取扱部署
授業に関すること（授業時間割、講義室使用管理、履修登録、授業日程、休講等）	教務課
試験に関すること	
学籍に関すること（休学、復学、退学等）	
学費に関すること	
諸証明書に関すること	
成績に関すること	
教職、学芸員、資格、研究生、科目等履修生に関すること	
課外活動に関すること（部活動諸届、施設使用願、学生との懇談会他）	学生支援課
アパート・下宿・指定学生寮に関すること	
学寮に関すること	
拾得物、盗難届等に関すること	
奨学金に関すること	
学生応急貸付に関すること	
学生教育研究災害傷害保険に関すること	
アルバイトの紹介に関すること	
学生の健康に関すること	健康相談室
学生相談に関すること	学生相談室
就職活動に関すること	就職キャリア支援課
就職の斡旋に関すること	
就職関係推薦状発行に関すること	
キャリア支援、インターンシップに関すること	

履修要項

1 単位制度と学修時間

1．単位とは何か

すべての授業科目には単位数が設定されている。単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数値で示したものである。「1 単位の授業科目」は「45 時間の学修を必要とする内容」をもって構成することが標準となっている。学修時間には授業時間だけではなく、**予習・復習等教室外での自主学習時間も含まれる。**

2．単位と授業時間

各授業科目の単位数は大学設置基準に準拠の上、工学院大学学則により 1 単位の履修時間を**授業時間および自主学習時間を合わせて** 45 時間とし、授業の方法に応じて次のように規定されている。

［1 単位に要する学修時間］

授業種別	授業時間	自主学習時間
講義	15 時間	30 時間～
演習・外国語科目・実験・実習・実技	30 時間	15 時間～

工学院大学学則に基づき、各授業科目の授業は 15 週にわたる期間を単位として行うが、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることが認められる場合はこの限りではない。

3．単位修得

単位の修得には、次の 2 点を満たすことが必要である。各授業科目の評価方法は、シラバスを参照のこと。

① 各年度に開講される授業科目の登録を行うこと
② 登録した科目を履修し、予習・復習時間を含めた学修に対して評価（定期試験・レポート課題・平常点評価など）を受け、合格評価を得ること。

各科目で十分な学修成果をあげ、単位を修得するためには、単位数と学修時間の関係を理解することが大切である。**授業時間内の学修だけではなく、自主的な予習・復習を心掛けること。**

4．授業時間

授業時間は次のとおりである。

＜通常＞

1 時限目	2 時限目	昼休憩	3 時限目	4 時限目	5 時限目	6 時限目
8:30–10:00	10:10–11:40	11:40–12:30	12:30–14:00	14:10–15:40	15:50–17:20	17:30–19:00

＜一部の 2・3 限連続授業＞ （詳細は担当教員に確認すること）

1 時限目	2 時限目	3 時限目	昼休憩	4 時限目	5 時限目	6 時限目
8:30–10:00	10:10–11:40	11:50–13:20	13:20–14:10	14:10–15:40	15:50–17:20	17:30–19:00

5．履修登録できる単位数の上限（CAP 制）について

① CAP 制の趣旨

CAP 制とは、1 年間に履修登録できる単位数の上限を設けている制度のことであり、この上限を超える履修登録はできない。授業科目に設定されている単位は、すでに述べた通り 1 単位につき 45 時間の学修時間（授業時間と自習時間＜予習・復習にあてる時間＞を含む）を必要とする。**よって、履修した科目数に比例して、それぞれに必要な学修時間も増えることとなる。履修登録できる単位数を制限することは、履修する科目について十分な学修時間を確保することができるよう、また学修した内容を真に身につけられることを目的としている。**

② 履修登録の上限単位数

履修登録の年間上限単位数は、原則として **49 単位**（前期・後期・1～4Q、通年科目の合計）とする。夏期・春期等の集中授業は含めない。

③ CAP 制の特例措置

以下のとおり特例措置を設ける。

（1）通算GPAが高い学生に対する特例措置

前年度末日までの成績によって算出された通算GPAが3.5以上 かつ **前年度修得単位数が40単位以上の者**

→年間59単位まで履修登録を認める（+10単位）

※前年度修得単位数は、前期・後期・1～4Q・通年科目のみ（他大学科目は含まない）で算出する

※特例の対象となるかは学生ポータル「キューポート」で確認すること

（2）教職課程科目及び学芸員課程科目に対する特別措置

・教職に関する科目（学則別表第3教員免許状取得に必要な教職のための科目 及び 卒業単位に算入されないその他の科目）は上限単位数に含めない

・学芸員課程必修科目は上限単位数に含めない

2 教育課程

本学の教育課程は、**工学の原理と応用を学び専門的な職業人になるとともに、幅広い教養をもった社会人になる**ことを目的として、総合教育科目群および各学科の専門共通科目群・専門科目群を合理的・有機的に系統づけた授業科目の構成となっている。この他に、教員免許状の取得を希望する学生のために教職課程が、また、学芸員の資格取得を希望する学生のために学芸員課程が設置されている。

1．授業科目の区分

入学年度の学生便覧にある各学科**カリキュラム表**（学則別表第一）及び**進級・卒業条件表**（学則別表第五）で確認すること。また各学科カリキュラム表の**学位授与の方針**には、各科目を履修することで身につく **4 つのディプロマポリシー**（**学位授与の方針**）の割合を示している。ディプロマポリシーの詳細は、ホームページを参照すること。

2．授業科目の種別

授業科目の種別	種別説明
必　修　科　目	教育目的を達成するために必ず単位の修得を要する科目
選 択 必 修 科 目	指定された科目群の中から科目を選択し、決められた単位数以上の修得を要する科目
選　択　科　目	学生の自由意志により選択し、卒業条件などで定められた単位数を満たすために一定以上の修得を要する科目

3．学年

各学科のカリキュラム表には標準履修学年が示してある。自身の履修学年より上の標準履修学年科目は原則、履修することはできない。

4．履修期の種類

履修期の種類は以下の通りである。

4月 ～		9月 ～	
通　　年			
前　　期		**後　　期**	
1Q（前期の前半）	**2Q**（前期の後半）	**3Q**（後期の前半）	**4Q**（後期の後半）

注1）詳細については、大学授業日程を確認すること。

注2）1～4Qの授業は原則として、各8回とする。

注3）前期および後期の授業は原則として、各15回とする。

3　卒業のために必要な条件

本学を卒業するためには、学則に則り、修業年限を満たし、学部・学科ごとに定められた卒業要件に必要な単位数を修得する必要がある。

１．修業年限と在学年限、学籍

① **修業年限**とは、教育課程を修了して卒業するために必要な年数で **4 年間**の在学を必要とする。
　休学期間は在学年数に含まれない。
② **在学年限**とは、本学に学生として在学できる最長年数のことで、休学期間を除き **8 年**である。
③ **学籍**とは、本学の学生としての身分を有することをいう。
　学生は、入学と同時に**学籍**が得られ、卒業・退学・除籍により消滅する。

２．卒業に必要な単位

学則に定める卒業要件を満たしていなければ、卒業は認められない。
卒業に必要な単位数の詳細は、入学年度の『学生便覧』にある**進級・卒業条件表**（学則別表第五）で確認すること。

1　履修登録とは

単位を修得するためには、**事前に受講科目の登録が必要**である。このことを履修登録という。
「学生便覧」「授業時間割表」「履修の手引き」「シラバス」をもとに計画を立て履修登録をしなければならない。
定められた履修登録期間に履修登録を怠ると、授業を受けることができず、単位も修得できなくなるので注意すること。

2　履修準備・計画と登録方法

大学における学修が高校時代までの学修と根本的に異なるのは、学生自らが履修計画を立て、自主的に授業を受けていく点にある。「**カリキュラム表**」で受講すべき授業科目を選んで履修計画を立て、「**進級・卒業条件表**」の条件を満たすように単位を修得していく必要がある。履修登録の方法については、「**履修の手引き**」で諸注意事項などを確認し、指定された期間内に「キューポート」で必ず登録すること。

3　科目名表記の注意点

科目名に数字やアルファベットの標記がある科目は、以下の定義に従っている。

科目名	定義	修得する順序
○○○○1、2、・・・	ステップアップ科目	**修得順が必須である**
○○○○Ⅰ、Ⅱ、・・・	科目のレベルを示す	修得順が必須でない
○○○○A、B、・・・	科目のレベル差がない	修得順が必須でない

4　大学院科目の履修

本学大学院進学を予定している4年次生に大学院の開講科目を、先に履修することができる先行履修制度があり、概要は以下の通りである。[学部学生の大学院科目先行履修制度に関する内規より抜粋]

対象者

学部4年次在学生で「卒業論文」、「卒業研究」、「創造工学セミナーⅡ」に着手しており、本学大学院への進学を希望している者

希望者の選考および受講許可

先行履修を希望する学生は、学部3年次または4年次中の受付期間に所定の申請書類を教務課に提出して願い出なければならない。

履修登録

学部在学中に先行履修できる大学院科目は**15単位**を上限とする。履修登録期間中であれば取消のみ可能。所定の履修登録期間以外での科目の変更・追加・取消は認めない。

受講料

無料

合格した科目の修得単位

・学部4年生次に履修し、試験に合格した大学院科目の単位は、大学院入学後に既修得単位として認定し修了に必要な単位数に算入することができる。
・大学院に進学しない場合には、取得単位は無効となる。
・学部在学中に先行履修し修得した科目が大学院入学時にカリキュラムに存在しない場合、先行履修科目として単位認定し、他専攻科目として修了単位数に含める。
・学部在学中に先行履修し修得した科目が大学院入学後に名称変更されている場合、変更後の科目に振り替える。
・学部在学中に先行履修し修得した各専攻の教職課程認定科目の単位は、専修免許状申請に使用できる。その他資格取得等については別途定める。

5　編入学生の既修得単位の取扱いと編入学後の履修について

編入学生のカリキュラム年度は編入学年度と異なるので、下表を参考に注意すること。

編入学年度（2026 年度）	適用カリキュラム年度
2 年次編入生	2025 年度
3 年次編入生	2024 年度

1 授業形態

授業は、LMS（学修支援システム、本学では KU-LMS という）等を有機的に組み込んだ対面授業・遠隔授業を行う。
授業形態の詳細は履修の手引きを、各授業の詳細内容についてはシラバスを確認すること。

授業形態	特徴と注意点	時限	受講形態
①対面 時間割上の曜日時限に配当された教室における対面の授業をベースとする* 時間割表記：**[対面]**	・教室 / 実験室等で実施される ・出席の際は教室備え付けの出席端末リーダーにタッチすること ・基本、対面授業だが一部の授業回を遠隔で実施することもあるので教員の指示に従うこと	2〜5 限	対面
②ハイブリッド 時間割上の曜日時限に配当された教室にて実施し、オンラインツールを用いて同時配信を行う* 時間割表記：**[ハイ]**	・対面で受講するときは、教室備え付けの出席端末リーダーにタッチすること ・遠隔受講の場合の要件（受講場所を問うか、問わないかなど）は各回の授業で指示があるのでそれに従うこと ・遠隔受講の出席確認方法は教員の指示に従うこと	2〜5 限	対面/遠隔
③遠隔（同時双方向） すべての授業を時間割上の曜日時限にオンラインツールを用いて実施する* 時間割表記：**[遠隔(同)]**	・受講要件（受講場所を問うか、問わないかなど）は各回の授業で指示があるのでそれに従うこと ・出席確認方法は教員の指示に従うこと	2〜5 限	遠隔
④遠隔（オンデマンド） 音声付パワーポイント教材や録画した映像授業を定められた期限までに受講する 時間割表記：**[遠隔(オ)]**	・1 限または 6 限に配置されているが、その時限に受講する必要はない。 ・一つの時限に複数の授業を履修可能。 ・受講や課題・小テストの期限は受講方法説明書の記載や教員の指示に従って対応すること ・課題は定められた期限までに提出すること ・質問は教員の指示に従っておこなうこと ・出席確認方法は教員の指示に従うこと	1 限 または 6 限	遠隔

***1 回分のオンデマンド授業を除く**

＊遠隔授業が卒業単位として認められる上限 60 単位について

学則第 35 条 2 により、遠隔授業が卒業単位として認められるのは 60 単位以下と定められているため、履修においては遠隔授業で修得する単位数に注意すること。ただし、**対面授業を 64 単位以上修得している場合は、遠隔授業の単位が 60 単位を超えることは差しつかえない。**

※授業形態が[遠隔(オ)&対面]となっている授業は遠隔としてカウントします。

2 授業への出席

履修科目の授業には、毎回出席しなければならない。単位制の基本となる授業時間について定めがあるように、出席状況は成績評価の前提条件である。対面授業においては、出席時に教室にあるカードリーダーに学生証をかざして出席登録をすること。遠隔授業においては、別途授業担当教員の指示に従うこと。

3 休講・調整・補講・授業時間割の変更について

1．休講

休講の場合は、事前に「キューポート」の掲示で周知する。
休講の掲示がなく、40分経過しても授業が行われなかった場合は教務課で確認すること。

2．補講

補講とは休講等に対する措置として行う授業であり、臨時で行われる。実施については「キューポート」の掲示で周知

する。

3．授業時間割の変更

授業の曜日・時限・教室・担当教員に変更がある場合は、事前に「キューポート」で周知する。

4 緊急時の授業措置

緊急時の授業措置は、下記1．交通機関が不通の場合、2．暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報の場合、3．その他の緊急事態の場合を基準に判断するが、あくまで**学長が決定する**。休講が決定した場合は、大学ホームページや「キューポート」で周知する。休講の通知がない場合は、原則として授業は実施する。

1．交通機関が不通の場合

【新宿キャンパスの場合】

首都圏の JR および新宿に乗り入れている私鉄の大半が長時間に渡って不通の場合、休講となる可能性があるので、ホームページや「キューポート」を確認すること。

【八王子キャンパスの場合】

以下の路線のうち、いずれかの路線が不通となった場合は休講となる可能性があるので、必ずホームページや「キューポート」を確認すること。

・ＪＲ中央線（立川～八王子間）、京王線（京王八王子～調布間）が両方とも不通となった場合
・横浜線（八王子～橋本間）が不通となった場合
・西東京バス（工学院大学～ＪＲ八王子・京王八王子間）が不通となった場合

※１路線が短時間不通となった場合は、授業を休講とはしない

2．暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報の場合

新宿キャンパスは東京 23 区、八王子キャンパスでは多摩南部に、暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報が発令された場合には、授業が休講となる可能性がある。また、警報等が解除されても交通機関に影響が出ている場合は、１．交通機関が不通の場合、の措置を適用するのでホームページや「キューポート」で確認すること。

授業実施中に警報が発令された場合、授業の継続・中止の判断は学長が行うとともに、学内の緊急放送および「キューポート」等で周知する。

なお、自宅付近の気象情報を十分に注意し、危険が伴う場合は無理に登校せず、自身の安全を確保すること。この場合は事後で構わないので、授業担当教員に報告すること。

3．その他の緊急事態の場合

上記以外の緊急事態の場合、学長の判断で決定する。

5 ハイブリッド留学

ハイブリッド留学とは、学生が、留学先の協定校では本学授業を日本語で受講し、生活は英語で過ごすというハイブリッドな環境による留学プログラムで、「まず海を渡る」ことを最優先に考えた本学独自のプログラムである。滞在地や実施時期など、詳細については本学ホームページにて確認できる。

ハイブリッド留学は、本学教員が留学先に渡航、またはオンライン授業を通して日本語で授業を行うため、参加にあたって英語力は問われず、留学先の授業料は必要ないため、留学費用の負担が少ないこと等が特長である。ただし、各学部・学科により成績等の条件を設けているので詳細は下記説明会等で確認すること。参加に際しては、「募集説明会」への出席が必須条件となる。説明会日時や参加申込などの詳細については、「キューポート」にて確認すること。また国際情勢や現地協定校等の事情により、プログラムを中止または変更することがある。

6 単位互換制度

単位互換制度とは他大学等の単位を一定の範囲内で自大学の単位としてみなし得る制度のことである。本学には二つの単位互換制度がある。

東京理工系四大学 単位互換制度

工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学および東京都市大学の四大学は、「東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づき、1999年度から単位互換制度を設けた。これは、各大学で開設している授業科目を他の三大学の学生に対して門戸を開放する単位互換制度で、単位互換開放科目として履修できる。なお、大学によっては受講を制限する科目および受講者数を制限する科目があるため、教務課の窓口で履修相談すること。

大学コンソーシアム八王子 単位互換制度

本学は大学コンソーシアム八王子に加盟しており、大学コンソーシアム単位互換協定に加盟している大学等の講義を履修できる。大学によって開講科目が定められているので、詳細は教務課の窓口で履修相談すること。

①履修について

項目		摘要
対象学部・学科、学年		本学学部生全員が対象
履修許可する単位互換開放科目	**東京理工系四大学**	他大学の単位互換開放科目。本学カリキュラム科目と同名称または類似科目でも履修可能。ただし、他大学第二部の単位互換開放科目を履修し、単位を修得しても、卒業に必要な単位数には換算されないので注意すること。
	大学コンソーシアム八王子	原則、他大学が提供するすべての科目を履修可能。本学カリキュラム科目と同名称または類似科目も履修可能。
単位互換開放科目の人数制限	**東京理工系四大学**	１科目３名まで
	大学コンソーシアム八王子	制限なし
履修可能な授業科目数の上限		当該年度当たり４科目*まで ***東京理工系四大学と大学コンソーシアム八王子の合計値であることに注意**
履修許可の責任者		所属する学科の学科長
履修登録時期		前期科目の場合は４月上旬、後期科目の場合は９月中旬ごろに「キューポート」で案内を出すので、内容をよく確認すること。
聴講料等		聴講料、入学検定料、入学金等は免除。ただし、実験・実習等で特別にかかる費用は実費徴収とする。

②単位認定について

受け入れ大学からの成績評価に基づき、本学で単位認定を行う。

単位認定された科目は、進級・卒業に必要な単位の内数として算入できる。

ただし、学科の指定がある場合には進級・卒業に必要な単位数として加算されないことがあるので、進級・卒業条件表に記載されている内容を必ず確認すること。

7 単位認定型インターンシップ

インターンシップは、「学生が在学中に自らの専門、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」であり、教育の改善・充実および学生の学修意欲の喚起、高い職業意識の育成などの意義を有するものである。

種別 / 項目	インターンシップA	インターンシップB	学外研修
履修学年	1～2年生		3年生
単位	1単位	2単位	2単位
実施期間	実働5日間以上	実働10日間以上	実働10日間以上
実施時期	原則として夏期休暇中に行う。		
履修登録等	説明会を開催する（日程等はキューポート/掲示を確認すること）		

1　試験受験の心得

合同定期試験・学期末筆記試験は、工学院大学試験規程に基づき実施する。
なお、受験に際し、次の点に注意すること。
① 試験開始10分前までに、試験会場に入室し着席すること
② 学生証（仮学生証を含む）を机上に提示すること
③ 机には一人おきに着席すること
④ 筆記用具及び許可された物品以外のものは、原則として各自の足元に置くこと
⑤ 試験教室内では、携帯電話の電源を切り、カバンなどに入れて机の下に置くこと
⑥ 試験実施時間中に、他者と物品の貸借をしないこと
⑦ 不正行為もしくは不正行為と疑われるようなまぎらわしい行為をしないこと
⑧ 答案用紙は解答の有無にかかわらず、試験終了時に必ず提出すること
⑨ その他、試験実施時間中は試験監督の指示に従うこと。
※遠隔試験においては、別途授業担当教員の指示に従うこと

不正行為を行った者は懲戒される。
懲戒は不正行為の種類により訓告、停学もしくは退学とする。
訓告を受けた者は不正行為をした受験科目の成績が無効となる。
停学および退学となった者は不正行為をした受験期間の受験科目全部の成績が無効となる。
不正行為を行い、懲戒処分となった結果、奨学金の停止や、留年による卒業の延期で内定が
取り消されるなど、学生生活に多大な影響を及ぼすことになるため、
不正行為は絶対に行わないこと。

2　成績評価方法の種類

個々人の学習の到達度を確認し、あわせて教育活動の成果を評価するために
主に以下の試験が実施される。

1．合同定期試験
複数の教員が合同で担当する同一科目やオンデマンド科目等で、年間学事日程で指定される試験期間内に実施する試験
2．学期末筆記試験
個々の教員が、学事日程上予め設定された週に実施する試験
3．授業内で行われる試験
4．レポート試験
※卒業論文試験は、論文、計画又は実験報告について随時行う。

試験時間割表に掲載されるのは、合同定期試験・学期末筆記試験として実施される試験のみのため、注意すること。
授業内で行われる試験、レポート試験で不正行為を行ったものは学生懲戒規程に基づき、懲戒となる。
(合同定期試験・学期末筆記試験については1　試験受験の心得を参照)

試験の成績評価は、A+、A、B、C、D、Fの6段階とし、F以外を合格とする。
成績評価方法の詳細については、それぞれ科目のシラバスを確認することができる。
また、試験に関する特記事項および受験条件が指定されている場合があるため、よく確認すること。

3　試験時間割発表時期

試験時間割発表時期は以下である。
〇合同定期試験時間割
　原則、毎年度4月1日にキューポート掲示で発表する。
※なお、試験教室配当については学期末定期試験時間割の発表と同時期に公開される。

〇学期末筆記試験時間割
　原則、試験開始日の1週間前にキューポート掲示で発表する。

4 追試験制度

正当な理由によりやむを得ず試験を受けられなかった学生に対して、
学事暦で定められた日程で追試験が実施される。
学生自身が所定の方法で必要な証明書を準備の上、申請する必要がある。

ただし、追試験申請の対象となるのは合同定期試験または学期末筆記試験として実施される試験のみであり授業内で行われる試験は対象外である。

なお、追試験受験の可否については試験委員会にて審議のうえ決定されるため
申請理由や、申請不備によって追試験が受験できないことがある。
※追試験に関する詳細、申請方法等は試験時間割発表と同時にキューポート掲示で公開する。

1 成績評価の種類

科目担当教員が下表にしたがって成績評価を行う。

Grade（評価）	評価基準	Grade Point（GP）	合否
A+	到達目標に達しており、非常に優秀な成績をおさめている	4	合格
A	到達目標に達しており、優秀な成績をおさめている	3.67	
B	到達目標に達しており、良好な成績をおさめている	3	
C	到達目標に達している。	2	
D	到達目標に達しているが、習熟を確実にするために再度受講することを推奨する	1	
F	到達目標に達していない	0	不合格

2 GPA とは

1．GPA（グレード・ポイント・アベレージ）について

本学では、学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学修への取組みに役立つよう、**科目の成績評価の平均を数値で表した GPA**（Grade Point Average/グレード・ポイント・アベレージの略）を算出している。GPA は学修の質を評価する成績評価の国際標準となっており、**合格した科目だけではなく不合格科目も算出対象となるのが大きな特徴**である。したがって、学生には自らの履修（履修登録を含む）に対して、より真剣に取組むことが求められる。算出した GPA は、キューポートの成績照会メニューに掲載する。

2．GPAの種類（2種類）

①**通算 GPA**　：入学時から更新日までの成績評価の平均値
②**単年度 GPA**：当該年度の成績評価の平均値

3．GPAの計算式

① **通算 GPA** ＝

$$\frac{\{(\text{A+の単位数}\times 4)+(\text{A の単位数}\times 3.67)+(\text{B の単位数}\times 3)+(\text{C の単位数}\times 2)+(\text{D の単位数}\times 1)+(\text{F の単位数}\times 0)\}}{\text{入学時から成績評価（不合格を含む）が確定した科目の総単位数〔同一科目は１回分を算入〕}}$$

・計算日時点で成績が確定した科目のみ計算対象とする。
・小数点以下第３位を四捨五入する。
・「不合格科目」の単位数は分母・分子両方に含む。
・「再履修・リピートした科目」の評価が従前より高くなった場合、低い評価の単位数は分母・分子両方から除外し、高い評価のみを分母・分子両方に含む。
・「再履修・リピートした科目」の評価が従前より低い、もしくは同じ評価となった場合の単位数は分母・分子両方から除外する。
・「教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の必修科目などの卒業に必要な単位数に算入されない科目」の単位数は分母・分子両方から除外する。

② **単年度 GPA**＝

$$\frac{\{(\text{A+の単位数}\times 4)+(\text{A の単位数}\times 3.67)+(\text{B の単位数}\times 3)+(\text{C の単位数}\times 2)+(\text{D の単位数}\times 1)+(\text{F の単位数}\times 0)\}}{\text{当該年度に履修登録した総単位数}}$$

・計算日時点で成績が確定した科目のみ計算対象とする。
・小数点以下第３位を四捨五入する。
・「不合格科目」「再履修・リピートした科目」「再履修・リピートする前の科目」の単位数は分母・分子両方に含む。
・「教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の必修科目などの卒業に必要な単位数に算入されない科目」の単位数は分母・分子両方から除外する。

4．GPAの更新時期

① 通算 GPA　＝　毎年度 9 月 30 日及び 3 月 31 日
② 単年度 GPA　＝　毎年度 9 月 30 日及び 3 月 31 日

5．科目振替時の評価方法

科目名称の変更により、入学年度のカリキュラム表にあった科目が履修できなくなった場合、名称変更後の科目(振替元科目)を修得することで旧名称科目(振替先科目)を修得したとする「科目振替」が行われる。原則科目振替時には、振替元科目の評価が振替先科目の評価として採用される。

なお、科目振替の対象科目については別途「科目変遷表」で確認すること。

6．編入学者・再入学者の評価方法

入学前に本学もしくは他大学等で修得し、本学で単位認定された科目の評価は GPA の計算に算入しない。
※ただし、再入学者のうち、GP 評価されていた科目については算入する

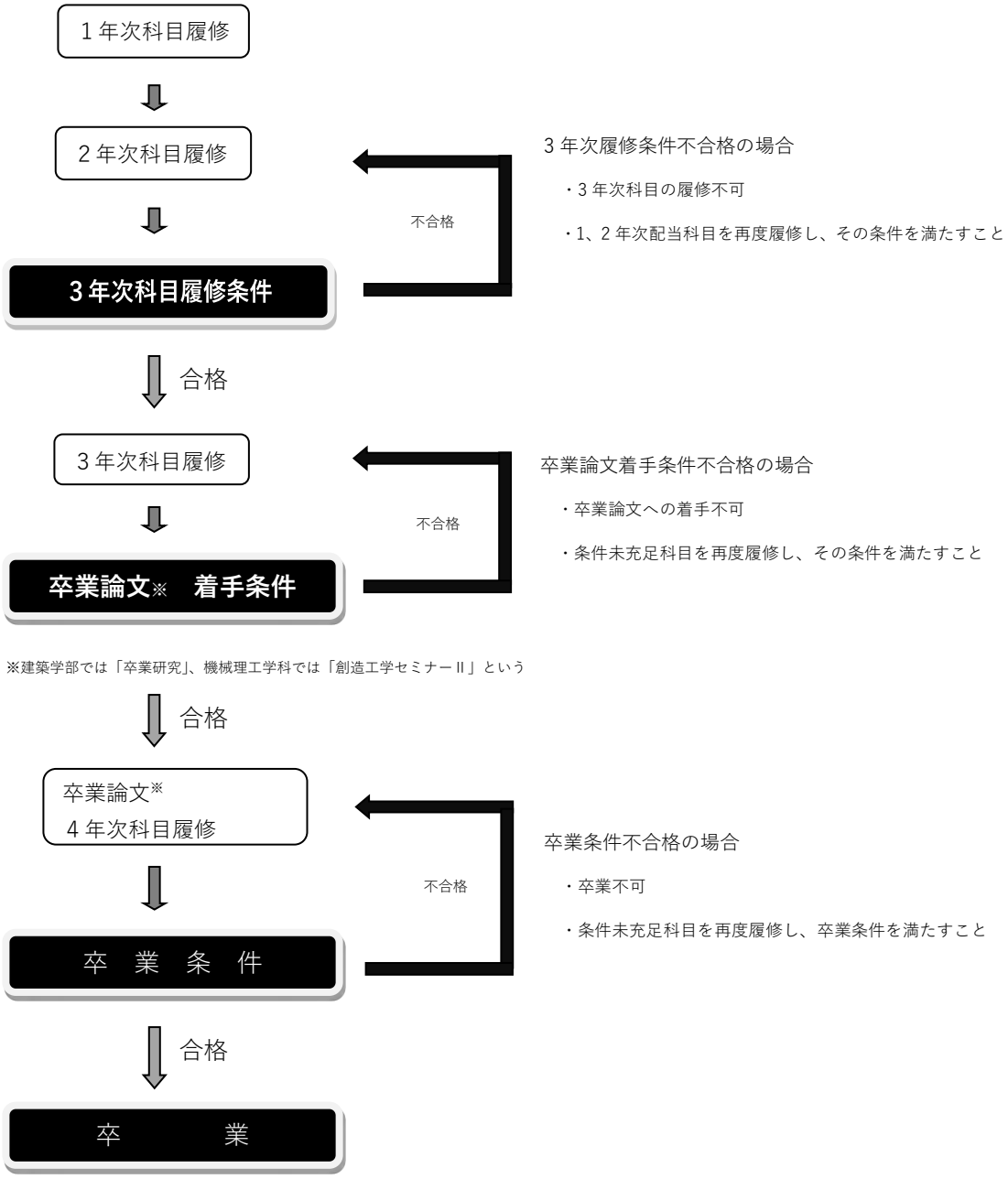
3　成績発表時期

成績は 6 月上旬、9 月上旬、11 月上旬、3 月上旬にキューポートで発表される。
成績発表日は、授業日程表を参照すること。

4　成績質疑

発表された成績について質疑がある場合は、授業担当教員に成績質疑をすることができる。

1　入学～卒業までのステップ



2　3年次科目履修条件

3年次の科目を履修するためには、**各学科が定める修得単位数を満たしていることが条件**となり、規定単位数に満たない場合は3年次科目の履修を認めない。3年次科目履修条件は各学科で異なるので、必ず入学年度の進級・卒業条件表を確認すること。

3　卒業論文着手条件

卒業論文・卒業研究・創造工学セミナーⅡに着手するためには、**3 年以上在学し、各学科が定める修得単位数を満たしていることが条件**となり、規定単位数に満たない場合は履修を認めない。卒業論文着手条件は各学科で異なるので、必ず入学年度の進級・卒業条件表を確認すること。

4　卒業条件

卒業するためには、**4 年以上在学し、**工学院大学学則に定める修得単位数を満たしていることが条件となる。卒業判定は4年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の前期末と後期末に判定する。

5 卒業および学位

本学を卒業した者に授与する学位は、次のとおりである。

学　部	学 位 名
先進工学部	
生命化学科	学士(工学)
応用化学科	学士(工学)
環境化学科	学士(工学)
応用物理学科	学士(工学)
機械理工学科	学士(工学)
工学部	
機械工学科	学士(工学)
機械システム工学科	学士(工学)
電気電子工学科	学士(工学)
建築学部	
まちづくり学科	学士(建築学)
建築学科	学士(建築学)
建築デザイン学科	学士(建築学)
情報学部	
情報通信工学科	学士(工学)
コンピュータ科学科	学士(情報学)
情報デザイン学科	学士(情報学)
情報科学科	学士(情報学)